

## ご挨拶



新潟原動機株式会社  
代表取締役社長

馬場 五郎

昨年（2008年）は京都議定書約束期間の初年度で、地球温暖化防止に関する議論が活発化し、各種法律も改正されてきています。CO<sub>2</sub>削減15%が国の方針として打ち出されましたが、非常に厳しい目標であり、産業界全体で対応していく必要があります。

本年エネルギーの使用の合理化に関する法律が変更され、これまでの工場・事業場ごとのエネルギー管理から、企業全体での管理に移行することになりました。当社としては、5工場のうち3工場が第二種エネルギー管理指定工場で、当然会社全体としても特定事業者には該当します。社長直下にエネルギー統括管理者を任命し、エネルギー管理対応組織を明確にして活動を開始しました。

近年、品質という「物作り」の原点を守っているだけでは企業としての責任を十分に果たしているとはいえません。より環境に優しい商品の開発を強力に推進する必要があります。当社は、数多くのディーゼルエンジン、ガスエンジン、ガスタービンを生産しており、それらの環境への負荷は大きいものと自覚しております。そのため熱効率の向上や窒素酸化物の削減など、環境技術開発の推進については、最大のテーマとして取り組んでおります。また、工場内製造プロセスにおいても、「シナリオ化とシナリオ配膳」と呼んでいる仕組みにより、作業効率改善を推進し、原単位あたりのエネルギー消費の削減に効果を発揮してきています。

また、上記環境技術や作業効率の改善に加えて、仕損によるダブルエネルギーの発生防止、ごみのない職場環境の改善、省エネルギー型設備や機器への交換など、地道ではありますが、社内省エネ活動にも注力しております。

一方、社内監視としての内部監査では、内部統制強化の一環として、昨年4月から監査室を設定し、決算統制や業務統制についての監査が始まっています。また、品質保証室では環境監査を通して環境コンプライアンスの監視を強化しています。これらの結果についても、当報告書を通して今後とも情報発信を行ってまいります。